

高校生が議員に政策提案

県議会 政治への理解深める



議員と意見を交わす高校生(左)

県議会棟

県議会では18日、議員と高校生との交流事業があり、県内6校の生徒が自分たちで考えた政策を発表したり、議員と意見を交わしたりして、政治への理解を深

めた。若い世代の政治参加意識を高めようと開催。県立長崎南、県立長崎鶴洋、県立中五島、県立希望が丘特別支援、長崎南山、長崎女子

商業の26人と県議会6会派の12人が参加した。

各校の生徒は、まちづくりやスポーツ振興、動物愛護など多様なテーマの政策を提案。このうち長崎鶴洋高は、諫早市出身の漫画家、草場道輝さんの作品で、長崎大水産学部を舞台にした「第九の波濤」とコラボレーションし、本県の水産業や食をアピールする案を発表した。

発表後は、各校に分かれて議員と意見交換。地域の防災について調べ、イベントを企画した中五島高2年の谷川寧々さん(17)と藤本瑠奈さん(17)は、避難所の施設老朽化やペットの安全確保などについて熱心に質問した。大倉聡議員は「問題意識を持って自ら動いた経験は社会人になっても生きる。ぜひ継続して取り組んでほしい」とエールを送った。(六倉大輔)